えんど久子県議ら日本共産党の要望が実り

ＬＰガス代など物価高の支援策が実現

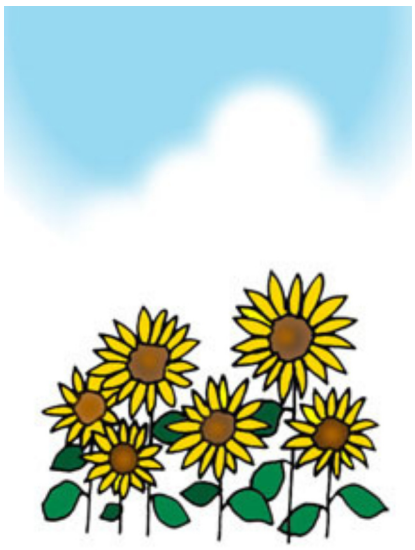
ＬＰガスに３０００円助成

日本共産党県議団は、物価高騰で暮らしや営業が厳しい中で、県民や中小事業者への広い支援策をくり返し求めてきました。

県議会でＬＰガスなどへの県独自の支援策を可決しました。ＬＰガスは、１０月利用分が１契約３０００円（月３０００円未満の場合は数ヶ月の合計で３０００円）安くなります。手続きの必要はありません。特別高圧契約で受電する中小企業（２万ボルト以上）への助成は、ｋＷｈ当たり３．５円で対象期間は今年１月～９月。手続きが必要で、手続きの簡素化を求めました。

福祉施設への助成は定額に

社会福祉施設等の電気代や食材費等の物価高騰分の一部を助成する補助金は、利用しやすいよう定額補助になります。



ガソリン代への助成を要望

えんど久子県議は商工観光労働企業委員会で、これらの支援策を評価しつつ「ガソリン代が高すぎるという声が多くこれまでも支援策などを求めてきたが、何らかの支援策を実施できないか」と質問。競争原理に基づいていること、国の支援策があることなどを答弁し、前向きな答弁はえられませんが、今後ともがんばります。

えんど久子県議は、体調不良のため 商工観光労働企業委員会に委員外議員としてリモート参加し、発言しました。右上の画面内がえんど県議。　　2023.7. 27.大分県議会委員会室

日本共産党 県政ニュース

発行　日本共産党大分県議団
大分県議会議員　えんど久子
TEL・Fax０９７－５３７－２３４４

No. 68
2023.8.9.

えんど久子のホームページはっぴーえんど・どっとねっとをぜひご覧ください

日本共産党えんど久子県議ら田村貴昭衆議院議員と共に

敷戸弾薬庫が狙われるのでは と不安の声

自衛隊施設内で説明を受ける

45億円の予算で新たに2つの弾薬庫が作られる大分分屯地。8月4日、えんど久子県議は、大分分屯地内で田村貴昭衆議院議員や住民のみなさんとともに防衛省から説明を受けました。

「戦争になれば一番先にここが狙われるのではないか」「ここは住宅地の真ん中だ」などと口々に近隣住民が訴えたり質問したりしました。防衛省職員は、粘り強く戦える姿勢を見せることで相手に攻撃をあきらめさせ、抑止力になると強調します。

スタンドオフミサイルを保管

弾薬庫に保管する大型弾薬とはスタンドオフミサイルであること、火薬取り締まり法では1棟あたりの火薬量が規定されており、棟を増やせば火薬量を増やしても今の住宅との距離のままで問題はないこと、8月下旬に契約すること、などを防衛省は説明。

参加者から「攻撃がないことが前提の基準だ」「一方で、武力攻撃に備えて基地の強靭化を行うのか。強靭化の内容は？」などの声が上がりました。

攻撃を受けないためと言うが

「弾薬庫に何をどれだけ入れるかは防衛能力を示すことになるのでお示しできない」という防衛省職員に「公表されないのに抑止力を示せるのか」と、田村貴昭衆議院議員。政府の説明の矛盾が浮き彫りになりました。

右から３人目が田村貴昭衆議院議員。その右えんど久子県議。近隣の住民や平和団体のみなさんと。防衛省の敷地内は写真撮影は禁止のため大分分屯地前で撮影。　2023.8.4.

大分県議会HP→インターネット中継で本会議の録画などを見ることができます。ぜひご覧ください